Abstract

CBRN テロ―その手法、防止、対処

宮坂直史（防衛大学校国際関係学科教授）

本論文では、まず、CBRN テロは、被害の原因となる物質の拡散と、それに伴い被害範囲が広域化する可能性という点で、通常型テロとは本質的に異なると規定した。

次に、テロリズムの手法（4 類型）からみて CBRN テロがいかに社会に脅威をもたらすかを述べた。通常であれば「無差別的で雄弁なテロリズム」が最も脅威なのだが、幸い CBRN テロにその事例はない。しかし、理論的には脅威が低減するはずの、それ以外の手法による事案でも、社会に恐怖や混乱をもたらしてきた。

さらに、CBRN テロに至るまでの危険因子が不明なので、その未然防止は何よりも製造させないことが最も直接的な対策になると論じた。

最後に、対処の難しさとして、CBRN が不可視的であり事件発生の知覚が遅れ、かつ被害が拡散する点を他のテロとの比較で浮き彫りにした。したがって、知覚を早め被害を封じこめることに資する対策や、訓練の在り方が重要になると評した。

『国際安全保障』第 44 巻第 2 号（2016 年 9 月）1―13 ページ。